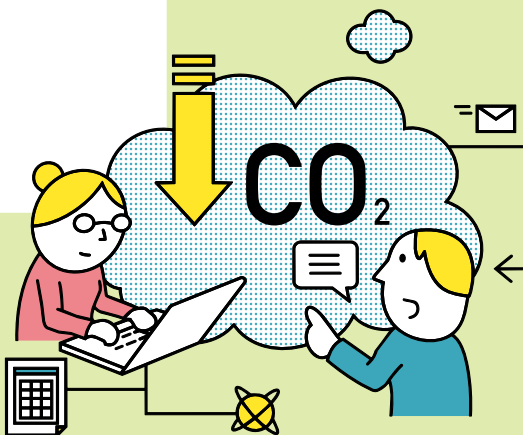


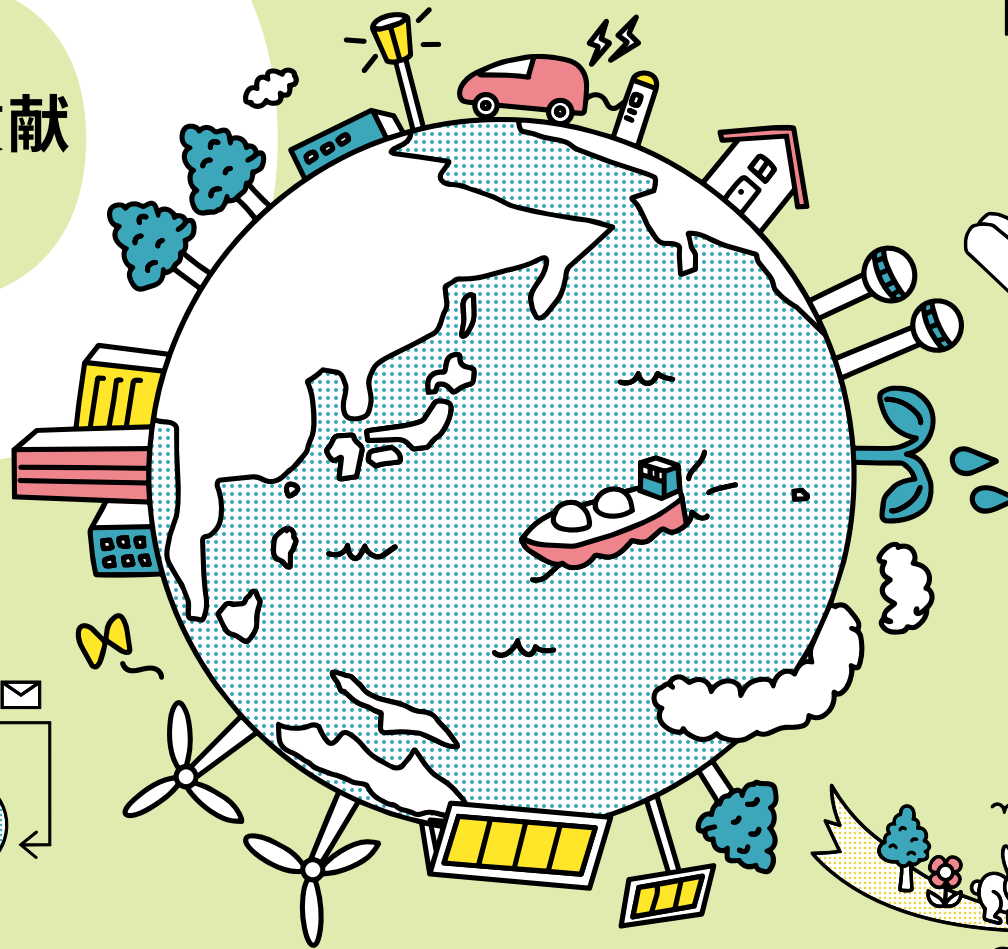
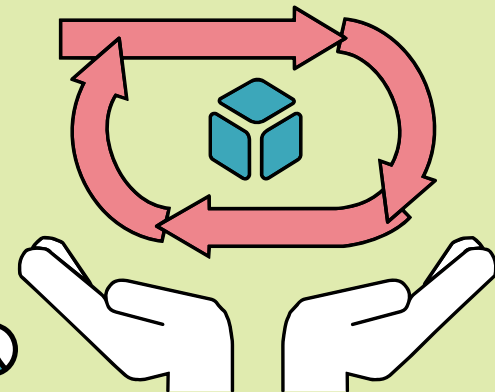
Planet

持続可能な 地球環境への貢献

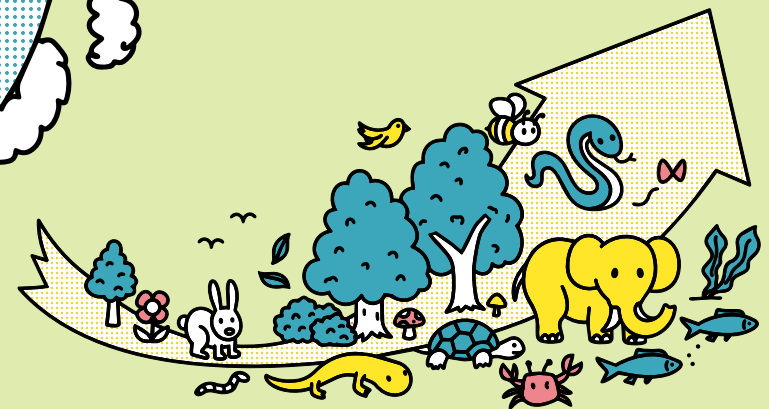
脱炭素



サーキュラーエコノミー



ネイチャーポジティブ



社会と企業の持続可能な発展のためには、地球環境と調和した企業経営が重要な役割を担っています。
日立ハイテックグループは、先端テクノロジーで事業活動に伴う資源・エネルギー消費と環境負荷の低減を図るとともに、
環境に配慮した製品・サービスの提供やバリューチェーン全体での取り組み等により、
「脱炭素」「サーキュラーエコノミー」「ネイチャーポジティブ」の実現をめざします。

脱炭素の実現に向けて

日立ハイテックグループは、調達から製造、物流、販売、サービス、製品使用や廃棄に至るまで、バリューチェーン全体を通じて温室効果ガスを排出しています。このため、気候変動への対応を重要な経営課題と認識し、顧客や社会からの環境負荷低減への期待に応えるべく、脱炭素社会の実現に向けた取り組みを推進しています。脱炭素の実現に向けた中長期目標として、2027年度までに国内外の全拠点でカーボンニュートラルを達成し、2050年度までにバリューチェーン全体でネットゼロを実現することを掲げています。

これらの目標達成に向け、再生可能エネルギーの活用、省エネルギー設備の導入をはじめとする環境設備投資の推進、製造プロセスの改善および環境配慮設計などに取り組むとともに、調達パートナーとの協働を通じて、バリューチェーン全体でのGHG排出量削減を進めています。その結果、2025年度は国内外44拠点でカーボンニュートラルを達成しました。

Pickup Site

日立ハイテック 笠戸地区における取り組み

笠戸地区（山口県下松市）では、2025年3月17日に半導体製造装置（エッチング装置）の新製造棟を竣工しました。新製造棟では、再生可能エネルギー電力の活用や太陽光発電システムの導入により、カーボンニュートラルを推進しています。さらに、生産ラインのデジタル化・自動化を進めることで、省エネルギー化と生産能力向上の両立を図っています。

サーキュラーエコノミー施策

- ・新製造棟タイルカーペットの廃材活用
- ・分別廃棄の継続

ネイチャーポジティブ施策

- ・構内花壇の外来種駆除
- ・はなぐり浜海岸清掃作業
- ・化学物質使用量の適正管理継続



タイルカーペット施工例



はなぐり浜海岸清掃

カーボンニュートラル施策



「2025年度 いばらきデコ活チャレンジカップ」センター長賞を受賞 那珂地区那珂サイト・マリンサイト・たら崎サイトの取り組みが評価

日立ハイテックは、CO₂削減に寄与する取り組みを競うコンテスト「2025年度いばらきデコ活*チャレンジカップ」において「茨城県地球温暖化防止活動推進センター長賞」を受賞しました。今回の受賞では、日立ハイテック 那珂地区那珂サイト、マリンサイトおよびたら崎サイトにおいて、太陽光発電システムを導入し、年間約743トンのCO₂排出削減に貢献している点が高く評価されました。さらに、那珂地区マリンサイトおよびたら崎サイトで再生可能エネルギー由来の電力の活用を推進し、カーボンニュートラルを達成した点も評価の対象となりました。

*「脱炭素につながる新しい豊かな暮らしを創る国民運動」の愛称

いばらきデコ活 チャレンジカップとは？

茨城県内でのカーボンニュートラル推進を目的に、個人・企業・団体からデコ活の実施計画や結果、CO₂削減量を募集するものです。2025年度は350件の応募が寄せられました。



表彰式の様子

事例

CDP「気候変動」「ウォーター」において最高評価「Aリスト」企業 およびサプライヤーエンゲージメントリーダーに2年連続で選定

日立ハイテクは2010年からCDP^{*1}への回答を継続し、脱炭素およびネイチャーポジティブの実現に向けた取り組みを進めています。その取り組みが評価され、CDPの「気候変動」および「ウォーター」分野において最高評価である「Aリスト」企業に選定されました。また、調達パートナーとの協

働を通じたサプライチェーン全体での気候変動対応が評価され、「サプライヤー・エンゲージメント・リーダー」にも選定されています。これにより、当社は2年連続で3分野の最高評価を獲得しました。

^{*1} 英国で設立された国際的な非政府組織 (NGO)



事例

「日立ハイテクサイエンスの森」が JHEP 認証の更新において最高ランクを継続して取得



日立ハイテクのグループ会社である日立ハイテクアナリシス 富士小山事業所（静岡県駿東郡）内に整備した「日立ハイテクサイエンスの森」が、JHEP 認証^{*2}において、前回に続いて最高ランクのAAA（トリプルエー）を取得しました。

JHEP 認証は、日本生態系協会が生物多様性の保全に貢献する取り組みを定量的に評価・認証する制度で、5年ごとに認証更新が必要なものです。今回の更

新では継続的に活動を行い、着実に成果を残したことが評価されました。

^{*2} Japan Habitat Evaluation and Certification Program. 日本生態系協会による、生物多様性の保全への貢献度を客観的・定量的に評価、認証し、可視化する認証制度

日立ハイテクサイエンスの森

「日立ハイテクサイエンスの森」は、事業所内にある約44,000平方メートルの森林です。かつて人々の暮らしとともにあった里山を再生することを目標に、2015年度から針葉樹林の広葉樹林化、地域在来植物であるススキ草地の再生、外来種の駆除などを実施してきました。今回の更新においては、これらの活動を継続的に実施し在来の植物再生・保全に取り組み、近隣地域の生物多様性保全を推進する拠点の一つとして重要な役割を果たしている点が評価され、最高ランクを取得することができました。2021年度からは昆虫の棲み処であるインセクトホテルの制作・設置にも取り組み、2023年度には「自然共生サイト^{*3}」に認定され、2024年度には「OECM (Other Effective area-based Conservation Measures)^{*4}」として国際データベースに登録されるなど、さまざまな活動を推進し、社外からも評価を受けています。

^{*3} ニュースリリース (2024年2月27日): 「日立ハイテクサイエンスの森」が環境省より「自然共生サイト」に認定

^{*4} 自然環境保全法や都道府県の条例に基づき自然環境保全や生物多様性の確保のために指定された保護地域以外で、生物多様性保全に貢献している地域



従業員有志によるススキの植栽作業の様子



「日立ハイテクサイエンスの森」(写真上部分)



Pickup 1 社員参加型「田植え体験イベント」

「脱炭素を実感する」取り組みへ ——日立ハイテクが田植え体験に込めた狙い

水稻栽培における「中干し延長」という農業技術と、企業のカーボンクレジット購入を結びつけたユニークな取り組みが、茨城県常陸大宮市の農地で動き出しています。NTTドコモビジネスが設計したJ-クレジット活用スキームに、日立ハイテクが「社員による田植え体験」とセットで参画。クレジットを購入するだけでなく、その創出プロセスに社員自身が関わることで、脱炭素を体感・可視化する新たなモデルを描いています。2026年5月23日には、茨城県の農家の皆さまのご協力のもと、社員参加型の「田植え体験イベント」を実施しました。

農業体験と連動したJ-クレジット購入で 脱炭素と地域共生を両立する新たなモデルケースに

日立ハイテクは、2027年度までにScope1・2のカーボンニュートラル達成という目標を掲げています。目標達成の手段としてカーボンクレジットの活用を進める中、単なる「クレジットの購入」にとどまらず、脱炭素の取り組みを可視化して社員の環境意識を高める手法を模索していました。解決策として着目したのが、水田から発生する温室効果ガスを削減する「中干し延長」を活用したJ-クレジットです。中干しとは、稲の栽培期間中に一度水田の水を抜いて田面を乾かす農業技術です。水を抜く期間を通常より延長することで、メタン生成菌の働きが抑えられ、CO₂の約28倍の温室効果を持

つメタンガスの排出量を削減できます。

農業体験の舞台となった茨城県は、日立ハイテクの中核工場をはじめ多くの事業所が集積する拠点です。職場に近い農地から創出されたクレジットを活用することで、地域とのつながりを深めながら脱炭素の取り組みを推進しています。単に排出量を数字上でオフセットするのではなく、社員自らが田植え体験を通じて環境負荷低減の仕組みを学ぶ一連の試みは、脱炭素と地域共生を両立する新たなモデルケースとして今後の展開が期待されています。

初の社員参加型の環境イベントとして
田植え体験を実施



脱炭素を“自分ごと化”

カーボンクレジット購入によるオフセットには、どうしても「お金で解決する」というイメージがあります。だからこそ、社員自らが創出の現場に関わり、脱炭素の取り組みを可視化・自分ごと化していきたいという思いで、今回の取り組みを始めました。今後は、対象を環境担当以外の社員や家族へと広げていく方針です。「田植え→収穫→食卓」へと体験サイクルをつなげ、脱炭素の自分ごと化を日常に根付かせていきたいです。



サステナビリティ推進部
永江 さん

Pickup 2 社員食堂サステナブルメニュー

社員食堂から広げるサステナビリティー無理なく続ける環境配慮の取り組み

日立ハイテク那珂地区の2つの社員食堂では、食を通じて環境課題を考える取り組みとして、大豆ミートや持続可能な水産物などの環境負荷の少ない食材を用いたサステナブルメニューの提供を行っています。2025年度は6月・8月・10月・12月・2月の計5回（各回1週間）にわたり提供し、両食堂合計で3,069kgの温室効果ガス排出量削減を達成しました。メニュー開発においては、利用者が構えず自然に選べるよう、親しみやすい言葉や身近な味づけを意識し、調理現場の負担を抑える工夫も重ねました。今後は植物性食材のみの定食など新たな挑戦を続け、食堂から無理のない持続可能な活動を広げていきます。



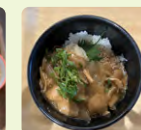
食品ロス削減月間のポスター



那珂サイト食堂



マリンサイト食堂



左：大豆ミート唐揚げ
（那珂サイト食堂）

右：大豆ミートの甘辛
旨煮あんかけご飯
（マリンサイト食堂）